# 総務企画委員会行政視察報告書

- **1. 実施日** 平成 27 年 10 月 27 日(火)~28 日(水)
- **2. 視 察 地** 1) 兵庫県西脇市
  - 2)京都府長岡京市
- 3. 視察項目 1) 稀代の軍師・黒田官兵衛を核としたまちづくり
  - 2)「細川ガラシャと明智光秀を NHK 大河ドラマの主役に」による広域連携によるまちづくり
- **4. 出席者** 委員長 澤野 伸

副委員長 天羽良明

委員 林 則夫、可児慶志、山根一男、伊藤 壽、渡辺仁美

事務局 小池祐功

## 5. 視察結果報告(西脇市)

(1)視察地の概要

## 地 勢

西脇市は平成 17 年に多可郡黒田庄町と新設合併、新「西脇市」となる。兵庫県のほぼ中央、東経 135 痔、北緯 35 度が交差する「日本列島の中心一日本のへそ」に位置しており、阪神都市圏からは 60 キロ圏内にある。

地形的には、中国山地の東南端が播磨平野に接する地点にあり、西光寺山(標高712.9m)を最高峰に四方を200~600mの山地、丘陵に囲まれている。中央部を県内最長の加古川が南流し、

市域南部で杉原川、野間川が合流しており、その河川沿いの平野部に集落や農地が 形成されている。市域は東西約 19km、南北約 13km、面積は 132.44 km で兵庫県面 積の 1.6%となる。

## 人口

42,377人(平成27年4月1日現在)男20,332人女22,045人

## 世帯数

16.773 世帯 (平成 27 年 4 月1日現在)

高齢化率 30.9% (平成 27 年 2 月1日時点) 兵庫県下 41 市町中 18 番目。

(2)視察の目的

西脇市のまちづくりに関する進め方、主な取り組み、具体的な手法等および歴史、

文化、自然等地域資源の活用法等を視察し、本市の交流人口の増加につながる起爆 剤形成をもたらすこと。

#### (3)黒田官兵衛とは

黒田官兵衛(黒田如水)は天文15年11月29日(1546年12月22日)、黒田満隆(のちの 黒田職隆、小寺職隆)の嫡男として播磨国の姫路で生まれた。

父・黒田満隆は23歳で、母は、16歳だったとされる岩(お岩)。乳母ではなく、母・お岩によって直接、育てられたとされる。

母は明石城主・明石宗和の娘で、この明石宗和は隠月斉(いんげつさい)と号し、関白・近衛稙家(たねいえ)に歌道を授けたと言われるほどの文化人であったため、母のお岩も歌道に精通しており、叔父の黒田休夢も羽柴秀吉の茶会に呼ばれるほどの茶人と言う環境で育った黒田官兵衛は、戦いの場にあっても、連歌、茶の湯をたしなむ教養ある文化人としても評価される。

もともと黒田氏は鎌倉時代の末、近江国伊香郡の黒田村出身とされるが、正確には 分かっていない。室町時代、黒田氏嫡流は宗家の京極氏から自立して幕府奉公衆に なり、評定衆をもつとめる名門であった。

その後、将軍の怒りに触れ、近江を追われた黒田氏は、一族を頼って備前国に流れたと考えられ、黒田家伝の「玲珠膏(れいしゅこう)」という目薬を製造・販売し、生計を立てたという。

黒田官兵衛の祖父・黒田重隆の代に備前国邑久郡福岡村に在住したが、その後、赤松氏の権威が低下している播磨国に移り、姫路・広峯神社の神官が全国を渡り歩く際、ご利益あるお札だけでなく目薬をセットとして販売してもらう事で財を成し、得た財を低金利で貸付け、たちまち土豪として成長し実力を付けた。はじめ竜野城主の大名・赤松政秀に仕えたが、ほどなく西播最大の大名である御着城主・小寺政職に主を替えた。小寺政職から黒田氏は重用され、黒田重隆は家老筆頭として姫路城の城代にまでなっている。この時はまだ居館程度の規模であった姫路城は、黒田重隆によって修築されたようだ。

#### (4)視察の内容

「官兵衞の里」を掲げる当市の官兵衞ゆかりの伝承地は、黒田城址、多田城址、黒田構工遺跡、兵子神社、太閤の腰掛石、荘厳寺(荘厳寺本黒田家略系図所蔵)、松ケ瀬等多数存在する。

しかしながら、黒田官兵衞生誕には他市説もあり、限られた時間内でそこへの視察も必要との委員長提案により、「ひめじ官兵衞プロジェクト」を呈した姫路城の施設視察も同時に行なった。

#### (5)主な質疑応答

#### 主な質疑応答

Q. 観光交流人口増加に向けての当市の取り組



#### みは?

#### Α.

- 黒田城址登山コースの整備標高差約200mで全長約 1.1kmを40分ほどかけて楽した。登山道。途中の大日如来や眺望場、見張り槍跡等が見られる。
- 前述の多田城址、黒田城址を含む約4.5kmのハイキングコースの整備。
- ○イメージキャラクターかんちゃん作成。
- 西脇市観光協会によるプロジェクト「戦国知将稀代軍師黒田官兵衞 ゆかりの里巡り」
- 西脇市「官兵衞の里」推進協議会による黒田官兵衞と黒田家の多可郡黒田村出 自説の主張のための検証。学説と伝承に関する基礎資料の整備。
- 官兵衞グッズの試作から完成・販売へ。官兵衞さんの里御前他弁当三種。ご当地 グルメ播州ラーメン。お土産には、官兵衞さんの合子兜まんじゅう、官兵衞の里せ んべい、官兵衞Tシャツ他。

#### (6)考察

観光交流人口増加に向けての各自治体の努力を知り、そこに本市での今後の展開へのヒントを見た有意義な視察であった。

何が観光客誘致につながるのかとの質疑に対し、西脇市議会議長の「付属的ではあるが、食べる楽しみとお土産などを買う楽しみは事実ある」という発言が印象に残った。



そのような点から考えると、可児市でも、地元食材やその加工品、既存の物も含め、 歴史的付加価値等をつけるなどノベルティや観光物産品を考案していく作業を今後も 続けていく必要があると感じた。また、そこには地域の市民力が加わることの大切さも 学んだ。

### 6. 視察結果報告(長岡京市)

### (1)視察地の概要

## 地 勢

京都盆地の西南部に位置し、北は向日市・京都市、東は、京都市、南は大山崎町、西は西山連峰を境に大阪府と接している。東西約6.5キロメートル、南北約4.3キロメートル、総面積19.17平方キロメートルで東西に長い長方形である。総面積の約65%が可住地の平坦部であり、残りの西山山地は、市街地の背景として本市の景観の主体となっている。

交通は、東部を J\_R 東海道本線、中央部を阪急電鉄京都線がそれぞれ並行して通過し、京都へは10~15分、大阪へは26~40分で行ける。 気候は、山城盆地特

有の晴れの日が多く、おおむね温和で、京都市内の盆地気候よりもしのぎやすい。

人口

80, 198人(平成27年1月1日現在) 男 38, 940人、女 41, 258人

世帯数

34,833世帯

面積

19. 17km²

#### (2) 視察の目的

市が進める市政運営の4つの重点方針のひとつにある「地域・経済の元気づくり」〈観光交流人口の拡大による活気に満ちた地域づくり〉をテーマに、歴史、文化、自然といった地域資源をうまく活用し、地域のまちづくりを行っている先進地を視察し、そのまちづくりの進め方、その具体的、効果的な手法を学び取る。

長岡京市で実施する「細川ガラシャと明智光秀を NHK 大河ドラマの主役に」による

広域連携のまちづくりについて、歴史、文化、自然といった地域資源をうまく活用し、また、起爆剤となるプロジェクト等をうまく絡み合わせ、市内連携や、さらには広域な連携をもって、地域のまちづくりを成功させている先進地として、そのまちづくりの進め方、その具体的、効果的な手法等について学ぶ。本市は、明智光秀の生誕の地として、何をすべきか、「大河ドラマ」へのプロセスを含めどのように観光交流人口を増やす方策に結び付けられるかの糸口を探りたい。



ガラシャが過ごした 勝龍寺城

## (3)細川ガラシャと明智光秀の説明

細川ガラシャは、名前を玉といい、1563年明智光秀の娘として誕生。16歳の時に勝龍寺城主細川藤孝の長子忠興のもとに輿入れし、幸福な新婚時代を過ごす。幸せも束の間、父明智光秀が「本能寺の変」を起こし、山崎の合戦で羽柴秀吉に敗れると、玉は生まれたばかりの子から引き離され、丹後の山奥深くの京丹後市味土野に約2年間幽閉される。その後、大阪城下玉造の細川家屋敷に住むようになってからも、さまざまな困難の中で、心の平安を求めてキリスト教を信仰。ついには洗礼を受け、ガラシャ(日本語で恵み)と呼ばれるようになる。

豊臣秀吉の死後、石田三成は大阪城下に屋敷を構える家康方の大名の妻に人質になるよう強要し、ガラシャも三成の命を受けました。ところが、彼女はこれを敢然と否定し、屋敷に火をかけて最後を遂げました。1600年、38歳の生涯。辞世の句として「ちりぬべき時知りてこそ世の中の花も花なれ」と伝えられている。

細川ガラシャは、戦国の世にその名を残す数少ない女性の一人で、大変な美人で

あったと言われている。苦難の生活を送りながらも自己の尊厳と人間愛を貫き通し、女性であることの誇りを持ち、常に世の中の平和を祈り続け、波乱に富んだ生涯を送った人である。

### (4) 視察の内容

〇長岡京市役所 企画部政策推進課 城田 賢二 課長

ガラシャまつりを23年前から行っていた経緯があった。平成22年6月、長岡京市の市長が NHK 大阪放送局長にガラシャを主人公とする大河ドラマの要望書を提出。しかし、ガラシャだけでは、短命のため年間50回のストーリー化が難しいことも予想し、近隣市町に協力を要請した。

- ・細川ガラシャゆかりの自治体・・・・・長岡京市・宮津市・京丹後市。
- ・細川幽斎・忠興ゆかりの自治体・・・・舞鶴市

平成23年4月、細川ガラシャ夫人とその父・明智光秀を主役に、波乱に満ちた戦国時代を生きた父娘の絆をテーマとする NHK 大河ドラマを誘致しようと京都府内の6市1町が連携して長岡京市が初代会長で「NHK 大河ドラマ誘致推進協議会」を設立した。

大河ドラマ誘致に向けた署名運動を書類とホームページ上で行っている。署名数16万名。協議会に参加する団体は、現在、長岡京市、綾部市、向日市、大山崎町と兵庫県篠山市、丹波市の12市町の行政、商工・観光団体。いずれもガラシャ、光秀、細川忠興(夫)と幽斎(忠興の父)ゆかりの市町。

ゆかりの地を通る京都縦貫自動車道を利用した地域の交流を発展させ、地域の歴史文化を全国に発信し、観光振興や地域経済の活性化はもとより、京都府を南北につなぐ地域連携の役割にも期待が高まる。

協議会の活動: 平成26年度 綾部市にて、平成26年度総会を開催。熊本市、山鹿市などオブザーバー参加。NHK センターへ提出する要望書を全会一致で採択。

各市町の取組例:綾部市にて、大河ドラマ誘致推進協議会リレーイベント「丹の国まつり」を開催。署名数689名。出来るだけ各市のイベントにゆるキャラとともに参加するようにしている。各12市町より負担金40万円で480万円で運営。

## (5)主な質疑応答

Q:大河ドラマ館とは?

A: セットやスタッフが利用する。場の提供を市でやる。

Q:連携してやっている苦労は?

A: 実際大所帯なので連絡調整が大変。決定になった時に、どこが撮影場所になるかなど調整も必要である。 それぞれ、押しているキャストが違うので大変。



- Q: 明智光秀をどのような人物として描かれることを望んでいるか?
- A: 当時の判断の難しさ。ぎりぎりの判断。 守るべきものがあった。
- Q:民間企業との協力体制は?
- A:現在商工会議所、観光協会が中心。ガラシャまつりに(11月8日予定)5万人。
- Q:誘致が成功した場合の経済効果を期待しているか?
- A: 直接効果が間違いなくある。観光交流人口の増加が期待出来る。仕掛けを考えたい。
- Q:NHK との窓口、接点はどのように持たれ、どう対応しているか、手応えは?
- A:京都放送局(地元)を大切に大阪、東京と活動している。明智光秀に関しては、大河ドラマになっていない最高の大物であると受け止められている。30近く名乗りが上がっている中、今後も粘り強く活動する。
- Q:美濃桃山陶の聖地、本市に協力できることがあれば?
- A: 光秀生誕の地として、連携をいただきたい。
- Q:ガラシャ・光秀街道という名をつけているが、抵抗はなかったか?
- A:協議会で提案して受け入れられている。
- Q:イベントは、協議会関係市はそれぞれ行っているか?
- A: 光秀、ガラシャ、忠興、幽斎の4人に関するイベントをやっている。

### (6)考察(まとめ)

街中には、ガラシャまつり[正式名:長岡京ガラシャ祭2015]ののぼりが立てられ、市の職員も、

青いハッピをきて仕事を行い、玄関には、大河ドラマ誘致の署名を促すコーナーがあった。来庁者に署名活動への協力を促す姿勢が出ていた。NHK 大河ドラマ誘致推進協議会に関する意見交換は、1時間半では、話が尽きなかった。明智光秀生誕地として本市がもっている情報を交換し、歴史的事実も提供できた有意義な視察となった。

誘致活動の目的の1つとして大河ドラマ放送は、経済効果があること、観光交流人口が増えることなど力強く説明をいただいた。3年前の「八重の桜」大河ドラマ後の観光動向などにも少し触れ、結果の分析、その後、どうまちの活性化に繋げるかのフォローも自治体にとって大切なことであるが、市民が工夫をしながら活動を盛り立て、市全体で誘致活動をして



いる過程がまちの活性化にとって大切な期間であると感じた。

次回の NHK 大河ドラマに決定している「真田丸」では、時代背景を考えると細川ガラシャは、ドラマに主要な人物として登場すると予想されるが、長岡京市としては、

NHK 大河ドラマ誘致推進協議会の活動を緩めず、主役の座に4人(ガラシャ、光秀、 幽斎、忠興)のいずれかが抜擢されることを主眼として活動に取組んでいく気構えであ る。大河ドラマの誘致活動を本格的にはじめて、5年目に入ろうとしている現在、市民 からは「いつだ、まだか」と期待が高まっている現状がある。

しかし、NHK の担当者によると名乗りをあげている案件が30以上あることや、大河ドラマの舞台が戦国時代、幕末、男性、女性、異色の人物などのサイクルから考えるとまだ、数年程先の状況をも想定しなければならない。署名活動を一生懸命やってきたので、新しく京都府からも支援が得られるようになったとのことで機運は高まっている。

最後に、本市は、森蘭丸と明智光秀のゆかりの地である。光秀は、大河ドラマの主役になっていない最後の大物であると思う。本能寺の変で敵味方になった2人が本市ゆかりである偶然の事実を観光につなげていきたい。

視察地の大河ドラマ誘致活動に協力する思いで、本市でも署名を集めるなど、お互いの活動や情報交流を深められれば大河ドラマの実現が近づくと思った。光秀生誕の地の子ども達の署名は威力があり、署名活動そのものが郷土愛を醸成するきっかけとなれば最高である。